

## 第16回ウイルス学キャンプ in 湯河原 開催のご案内

主催：ウイルス学キャンプ実行委員会

共催：日本ウイルス学会

はじめに：「ウイルス学キャンプ」をよく知らない方は[こちら](#)

**日時**：2019年5月28日（火）12:30 ～ 5月29日（水）12:00まで（予定）

**場所**：ニューウェルシティ湯河原

静岡県熱海市泉 107

TEL：0465-63-3721

<http://www.welcity-yugawara.co.jp/>

湯河原駅（JR 東海道本線）下車、バス 2 番乗り場

奥湯河原行・不動滝行 約 7 分、「理想郷」下車、徒歩 1 分

**対象**：主に若手研究者（大学院生、ポスドク、大学学部生、常勤・非常勤研究者など）。  
非ウイルス学会員の参加も歓迎します。研究を真剣に行っている・行いたい方。

### おおまかなプログラム：

< 5月28日（火） >

\*招待講演

～ 新進気鋭の研究者から最新の研究のお話 ～

1. 演題：「一・二・三分節マイナス鎖 RNA ウイルスの細胞内増殖機構の解析」

長崎大学熱帯医学研究所 新興感染症学分野 浦田 秀造 先生

[要旨] エボラウイルス感染によるエボラウイルス病やラッサウイルス感染によるラッサ熱はアフリカ地域において散発的・定期的に発生します。グローバル化した現在、これらの感染症を引き起こす病原体は日本を含む先進国に持ち込まれ拡がる可能性があります。エボラウイルスやラッサウイルスの病態発症機構や細胞内増殖機構は完全に理解されておらず、我々は特にウイルス粒子産生機構の解析を進めてきました。

本講演では上記のウイルス粒子産生機構の他、我が国に常在し致死率が 30%程度である重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV)の細胞内増殖機構の解析について我々の最新の研究成果を紹介していきます。

2. 演題:「ヒトT細胞白血病ウイルス1型による生体内維持機構と発がんにおける役割」

京都大学ウイルス・再生医科学研究所 ウイルス制御分野 安永 純一郎 先生

[要旨] ヒトT細胞白血病ウイルス1型 (HTLV-1) は感染細胞の生存・増殖により生体内での持続感染を維持し、結果として約5%の感染者に成人T細胞白血病(ATL)を引き起こす。HTLV-1がコードする2つの制御遺伝子、tax及びHTLV-1 bZIP factor (HBZ) はウイルスの複製、感染細胞の増殖に重要な役割を果たす。TaxとHBZは各々プロウイルスのプラス鎖、マイナス鎖にコードされ、その発現様式、機能は全く異なる。本講演では、TaxとHBZが協調して感染を維持し発がんを惹起する分子機構についてこれまでに我々が得た知見を紹介する。

募集中です

\*口頭発表

～ 希望者から数名選出させていただきます ～

募集中です

\*ポスター発表

～ 口頭発表以外の一般参加者は基本的に全員ポスター発表をお願いします。  
発表できるデータがない方は現在進行中あるいは今後の研究計画など ～

\*夕食、お風呂

\*懇親会、自由討論

< 5月29日(水) >

\*あの研究の舞台ウラ

～ 華々しい研究の裏には何がある??? ～

3. 演題:「キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤バロキサビル マルボキシルの創製」

塩野義製薬株式会社 創薬疾患研究所 熨斗 武志 先生

[要旨] Baloxavir marboxil (BXM) は、新規メカニズムの抗インフルエンザウイルス活性を示す化合物である。本化合物はプロドラッグであり、加水分解により生成した活性体 Baloxavir acid (BXA) は、インフルエンザウイルスの転写および複製に必須なキャップ依存性エンドヌクレアーゼ (CEN) を選択的に阻害することで、インフルエンザウイルスの増殖を抑制する。本発表では、ノイラミニダーゼ阻害とは異なる新規作用機序の発見に至った経緯や、非臨床実験の結果、臨床成績など抗インフルエンザウイルス薬としての特徴について紹介します。

＊若手研究者のためのキャリアパス講座

～ 研究者キャリアを多面的に考える ～

4. 演題：「ベンチャー企業経営と抗原特異的レパトア解析による新しい免疫の見方」

KOTAI バイオテクノロジーズ株式会社 山下 和男 先生

[要旨] 演者はアカデミア研究者であった 2016 年、ベンチャー企業立ち上げを行い 4 年目を迎えている。キャリアパスを一般化して話すことは難しいが、当社の研究を例にアカデミアでの研究とベンチャーでの研究との違いを議論し、アカデミア研究者がキャリアパスを考えるきっかけになればと考えている。出来るだけ質疑応答に時間を割き、出席者の興味に応じてサイエンスから会社経営まで多くの議論ができればと考えている。

＊いまだから聞けるウイルス学講座

～ ウイルス研究の歴史、流れ、転換点、ご自身が研究をはじめたきっかけなど、権威の先生がおおいに語ります ～

5. 演題：「エンテロウイルス研究に携わらせてください」

東京都医学総合研究所 ウイルス感染プロジェクト 小池 智 先生

[要旨] 私自身が「いまだから聞けるウイルス学講座」の演者になるとは思ってもかけませんでした。私よりも先輩にあたる先生方が大方引退されていることを実感いたしました。私が 1987 年に東京都医学総合研究所でポリオウイルスの研究を始めた当時から振り返り、どんなことが理解できたのか？まだ解決していない問題はなにか？今後どのような学問をするべきなのか？について自分自身でスライドを作りながら考える機会にしたいと思います。

詳細なプログラムは後日、参加者に直接お知らせします。

**申込に関して：**

定員：計 50 名（先着順で、定員になり次第締切らせていただきます。）

費用：未定（決定次第、お知らせいたします。 ちなみに昨年は、

参加費 3,000 円 + 宿泊費 9,000 円 + 懇親会費 1,000 円 でした。）

参加申込方法：以下の書式に沿って、電子メールで下記（virology-camp\*nih.go.jp：\*を@に変更して送信してください）までご連絡下さい。

締切：2019年4月18日

申込宛先、問い合わせ：

ウイルス学キャンプ in 湯河原 事務局

国立感染症研究所ウイルス第二部 渡士幸一

e-mail: virology-camp\*nih.go.jp

(\*を@に変更して送信してください)

-----  
第16回 ウイルス学キャンプ in 湯河原 参加申込書

氏名：(フリガナもお願いします)

性別：(部屋割りを決めるために記入お願いします)

所属：

職位：(学生、大学院生の場合は学年も)

所属施設住所：

所属施設電話番号：

電子メールアドレス：

発表演題名：

希望発表形式：(口頭、ポスターのいずれか)

口頭発表希望の場合のみ、要旨(200字程度)：

-----